



【タリタ、クム！】

(訳、「少女よ。起きなさい！」)

聖書本文:マルコの福音書5章22-24、35-43節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

主イエスキリストに会って愛するクリスチャンプレイズチャーチの兄弟、姉妹の神の家族、信仰の家族みなさん！一週間みんなお元気でしたか。

今日はある会堂司(管理長)の死んだ娘を生き返らせて下さったイエスキリストの御業をとして、今日この聖書の御言葉を通して、今の我らに望んでおられる御心が何であるかとも学ぶ時を持ちたいと願います。神の御子なるイエスキリストが救い主として、地上でおられ、働いておられた時に、様々な奇跡を通して、特にすでに死んだ者を生き返らせて下さる御業をなして下さったのは3回行ったことが分かります。ルカの福音書7章11節からのナインという町のある未亡人の死んで棺(ひつぎ)に担(かつ)ぎ出されていた一人息子を生き返らせて下さった出来事でした。そして、ヨハネの福音書11章ではアルタとマリアの兄弟で死んで四日たったいたラザロを生き返らせて下さいました。そして、もう一つの出来事が、会堂司ヤイロの病で死んだ12歳の娘を生き返られて下さったことです。

そして、もう一つの出来事が今日の御言葉であります。

今日の御言葉の本文を先ほど一緒に読みましたが、本文の内容はある12歳の小さい娘が重病で死にかけている危篤の状態でした。今日の本文12節によると、彼女のお父さんは、「会堂司(会堂長)の一人でヤイロ」という名前の人だったことが分かります。

1. 具体的に信じなければなりません！(23節)

聖書のどこを見ても会堂司(長)たちがイエスに対して良い反応をしたことはありません。

当時会堂司たちは、自分たちが持っていた既得権、権限と権力を握っていた身分の人たちだったため、まるで新しい振興勢力のように、急に現れて多くの民からの尊敬と支持を受けておられたイエス様が警戒の対象で、気の毒のような存在でした。ですから、聖書どこを見ても会堂司たちはイエスキリストを信じるのを拒否しただけではなく、イエス様を迫害する人々でした。会堂司(長)イエスキリストご自身だけではなく、後イエスキリストを信じたキリスト者たちにも彼らを攻撃し、多くの迫害を与えた人たちでした。

聖書で、会堂司の中唯一イエスキリストを信じた会堂司といえば、**使徒の働き18章**で、コリント地域にあった会堂司「クリスポ」だけは、「**家族全員とともに主を信じた。**」と書かれていただけでした。

そんな高ぶって、だれより頑な心と態度をもっていた会堂司の一人がヤイロでした。

会堂司(新改訳3版:管理者)だと書かれていますが、もっと正しい翻訳すると、「**会堂長(22節:the synagogue ruler)**」となります。つまり、会堂長は会堂で子どもたちにも聖書を教えながら、民たちの裁判権を持つほど、当時社会的に信望(しんぼう)が厚かった高い地位の存在でした。だから、一般の人たちよりも、悩み多く戸惑いながら、イエス様にまで来ることがとても大変だったかも知れません。

そんな彼がイエス様を切に探し、訪ねて来たのです！なぜでしょうか。

理由は簡単でした。自分の愛らしい娘が死にかけていて、もう死にそうになったからです。今日の本文**22節**では、会堂司ヤイロの「**小さい娘**」で、本文**42節**では「**彼女は十二歳であった**」と書かれています。同じ内容が書かれている**ルカの福音書8章42節**では、「**彼には十二歳ぐらいの一人娘**がいて、死にかけていたのであった」と記されています。

会堂(長)司ヤイロには12歳の一人しかいない娘がいたことが分かります。どれほど、大切に、自身の命のような愛おしく、愛らしい娘だったのでしょうか。そんな12歳の一人娘が今死にかけています。

会堂(長)司ヤイロは一人の父親として、まだ小さくて、子どもにすぎない、愛する娘を治そうと、持っているあらゆる人脈や権力、お金すべてを利用して努力して来たはずでしょう。娘を治すことができるなら、数えきれない名医に訪ねたり、効果のある薬なども飲ませて見たはずです。

しかし、その結果治るところか、時間が経てば経つほど、娘の症状はますます悪化され、もうこれ以上人の努力や力ではどうしようも出来ない、死にかけていて危篤の状態になってしまったでしょう。

この出来事がルカの福音書では8章に出っていますが、その前のルカの福音書7章では、先にイエスキリストがナインという町で、ある未亡人の死んで棺(ひつぎ)に担(かつ)ぎ出されていた、一人息子を生き返らせて下さった出来事をきつと聞いた可能性が高いし、今まで多くの病や苦しんでいる人々を癒して下さったというイエス様に対する多くうわさを何度も聞いたはずです。

そうなる、もう戸惑うことも、躊躇することもなく、会堂司以前、一人の父親としてヤイロは、最終的な選択肢として、会堂司の立場の既得権も、高いプライドもおろし、他の人々の視線も気にせず、イエス・キリストにまで訪ねて来ました。そのイエス様なら、きっと死にかけているわが娘をきつと治して下さるのではないか、小さな信仰と望みを握ってイエス様のもとに訪ねて来たと思えます。

会堂長であったヤイロがイエス様にどれほど切実だったのか、今日の本文の22節に「イエスを見るとその足もとにひれ伏して懇願した」も、そして、同じ、この出来事が記録されているルカの福音書8章41節(「彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと懇願した。」)によりますと、彼はイエス様の足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと切に願っていたことが分かります。

「主の足元にひれ伏し懇願していた」

会堂長ヤイロは自分の体面も要らなかつたし、自分のメンツも、プライドも立場なんかもいりませんでした。イエスキリストなら、きつと自分の娘を癒して下さると信じたヤイロは自分のすべてのメンツがまるつぶれになっても、かまわず、イエス様が自分より若いし、田舎のナザレの出身などみたいなの年や出身など人間的な関心や計算は全部後にし、最後の全ての希望をイエス様にかけて、懇切にイエス様の御前にひれ伏し、懇願している父ヤイロの姿でした。

そして、こうイエス様に懇願しています。

本文23節をご覧ください。「こう懇願した。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやってください。」」

とても具体的にイエス様に懇願しています。「どうかお家においでになってください！そして、娘の上に手を置いて下さい！私の娘が救ってください！生きられるようにしてください！」と。一言でヤイロの懇願の内容の結論は、「イエス様、私の娘がどうか生きられるようにしてください！」でしたが、イエス様に具体的な願いと望みがあった彼にあったことが分かります！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

会堂長だったヤイロには、イエスキリストに望みを置き、必死に探し求め、イエス様の足元にひれ伏すまでしたのは、彼にはイエス様への具体的な理由と目的があったからです。

今日みなさんは、どんな具体的な目的と理由をもってイエスキリストを信じ、御前に来られたのでしょうか。

最近、みなさんはイエスキリストの御名によって、具体的に何を求め、祈っているのでしょうか。

そして、神様に具体的に、どのように答えられ、神の御力を体験しているのでしょうか。

ぜひ牧場の時間にも、具体的に分かち合い、具体的な祈り課題を分かち合って、具体的に祈ってください。

そうすれば、今日も我らの生活や人生の中で生きておられ、ともにおられ、具体的に答え、神の御業を体験することができると信じます！

我らがイエスキリストを信じる信仰は、抽象的ではなく、具体的にしなければなりません！

今年、みなさんは、イエス様の御前でどんな具体的な目標と計画をもっているのでしょうか。

新しい2月に、具体的に信じ、具体的に祈り、懇願し、求め、具体的に神の御力を体験し、具体的に答えられる恵みの2月となりますように切にお祈り申し上げます！

2. 恐れなくて、信じ続けなければなりません！(35節)

本文24節によると、そこで、結局、会堂長ヤイロの懇願した通り、イエスはヤイロの家までヤイロと一緒に向かう途中でした。またイエス様がどうされるのか好奇心をもっていた多くの人々もついて行っています。

ところが、今日の本文35節を見ると、「会堂司の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。これ以上、先生を煩(わずら)わすことがあるでしょうか。」、つまり、「もうあなたのお嬢さんはなくなりました！」

もうすべての状況は終わってしまいました！もうおしまいです！だから、強いてイエス様を連れていく必要はないよ！イエス様が行かれてもどうしようもできないから！もうイエス様をわざわざ家にまで連れていくのは無駄だから！もう遅いよ！もうすべてがおしまいです！という意味が含まれていたことが分かります。

会堂長ヤイロは父親として、どれほどその話を聞いた時、もうその場でしばらく倒れていたかも知れません。彼の心はどれほど絶望的だったのでしょうか。娘のために、どれほど大きな、難しい決心をして、イエス様にまで言って、ついにイエス様を連れて行っている途中だったのに、残りの一抹(いちまつ)の望みも、希望を一瞬、家から来た人々の話で、絶望的になってしまい、自身の人生すべてが崩れそうに、つぶれそうになってしまったのではないのでしょうか。

愛する信仰の家族のみなさん！今、一瞬ヤイロを絶望に陥り、人生がつぶれそうになってしまったのは、全然知らない人の話ではなく、家から来た、家族のような人たちの話でした。実に、家に一緒に住んでいる人、身近な人、信頼できる人、自分の身近にいる人々の一言によって、傷つけられたり、絶望的になったり、激しく自身の人生が揺らいでしまう時があるのではないのでしょうか。ですから、強いてその話が事実であっても、我らは気を付けなければなりません。今ヤイロも生きる希望も、人生すべてがつぶれるような衝撃と絶望に陥り、まったく動けなくなって、座り込んで、絶望と娘の死の恐れに包まれ、捕らわれていたのに間違いありません。

その時でした。本文36節をご覧ください。イエス様は、その話をそばで聞き、(そうになっている)会堂司に(こう)言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」と。

イエス様は36節に、何とおっしゃっていたのですか。

「恐れなくて、ただ信じていなさい。」ここで、原語ギリシャ語聖書での正しい意味は、「恐れなくて、ただ信じ続けなさい。」と言う意味であります。これは現在形の命令で、信じ続けなさいという意味なのです。

あれこれあなたを絶望的にさせている人々の言葉を信じないで、わたしを信じることをやめなくて、私のみを信じ続けなさい!という意味です。

ルカの福音書8章50節には、「これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れなくて、ただ信じなさい。そうすれば、娘は救われます。」恐れなくて、悲しみと絶望に陥らないで、私を信じ続けなさい!

もう遅いと言われる人々の話を信じないで、恐れなくて、あなた自身がつぶれないように今!あなたとともに!行っている私と私の言葉を信じ続けなさい!という意味です。状況が変わっても、悪くなっても、人々の話が変わっても、恐れなくて、私を信じ続けるよう勧め、命じて下さっているのです。

たまにですが、何とか頑張って信仰生活を始め、進んでいる中、人々の一言に、持っていた信仰が、激しく揺らいたり、どすんと、崩れそうになってしまう方々を見たことがあります。聖書でイエス様の弟子ペテロが一瞬そうでした!

今日もイエス様はみなさん一人一人に、我らにこう語ってくださっています!

恐れなくて続けて信じるだけしなさい!聞こえる人々の話に絶望するな!もう遅いよ!もう出来ないのじゃないか!もうおしまいだ!とかの人の言葉に恐れなくて、信じないで、わたしとわたしの言葉を信じ続けなさい!と。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!ヤイロのそばにだれがいましたか。どなたがともに歩んでくださっているのでしょうか。神の御子、救い主イエス・キリストご自身ではないのでしょうか。ぜひみなさんも、これからどんな時にも、イエス様がみなさんとともにおられ、歩んでくださっているのを決して忘れないでください!!

イエス様は、言われた死んで絶望的になっていたヤイロの家に一人として帰らせません!主イエスキリストがその部屋にまでともに行って下さっていることをいつも覚えましょう。今、あなたのそばに私がいるから、恐れなくて、ただ私を信じ続けなさいと言われる主のお言葉を信じましょう。そして、今、今日からヤイロのようにもう一度、立ち上がって、イエスキリストとともに向かうべきところ、行くべき道に進み行きましょう。

3. タリタ、クム!を信じなければなりません(41-42節)

会堂(長)司ヤイロの家に着きます。すでにその家は死の影が支配していました。本文38節を見ますと「イエスは、人々が取り乱して、大声で泣いたりわめいたりしているの」ご覧になりました。そして、彼らに39節に、「その子は死んだものではありません。眠っているのです!」とイエス様が言われると、人々はイエスをあざ笑っていた彼らを外に出します。

そして、40節に、子どもの父と母と、弟子ペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて、もう死が支配している部屋、人々にはもう死んですべてが終わったと言われる、なくなった娘が横になっている部屋に入って行かれます。41節によると、そして、イエス様は、こどもの手を取ってこう宣布されます!

「タリタ、クム！」

ここで、イエス様が語られた「**タリタ、クム！**」という意味は、**タリタ(少女よ)+クム(起きなさい)の合成語(ごうせいご)**で、41節に書いてある通り、「**少女よ、起きなさい！**」と意味なのです。

その時に、亡くなっていた娘がすぐ生き返られ、寝て起きたかのようにぱっと起き上がりました！

人としては決してできない、本当の神様の存在じゃなければ、起こらない素晴らしい神の御業の瞬間でした！
死の絶望から復活の望みと喜びに変えさせて下さった神の御業に彼女の親も、イエス様の弟子たちも口もきけないほどに驚きました！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

今も我らの人生の途上(とじょう)にともに歩んで下っておられるイエス様は、我らにもこの御言葉を与えて下さっています！

「タリタ、クム！少女よ、起きなさい！タリタ、クム！私を信じるあなたよ、起きなさい！タリタ、クム！クリスチャンプレイズチャーチの私を信じる人たちよ、起きなさい！」と。

最後に、みなさん！今もここにともにおられ、みなさんのそばにおられるインマヌエルの主イエスキリストを心から信じて、みなさんが自分自身のお名前を入れて、こう宣布してみましよう！

「タリタ、クム！（自身のお名前よ！）起きなさい！」

絶望と恐れの中にいる我らに、今日もイエスキリストは「タリタ、クム！」と語ってくださるお言葉を信じ続け、自身に語り続けましよう。

今日イエス様は我らに死んだのではなく、寝ていると語りました。

死んだ者は決して自ら起き上がることはできません。本来死んだ者たちは自ら自分の力で起き上がれないように、自分の力で死から立ち上がれないのです。死はすべての人を飲み下します。

39節です。「**その子は死んだのではありません。眠っているのです。**」

イエスキリストを受け入れ、信じる人々には、死はおしまい、終わり、では決してありません。

ヤイロの娘のように、死んでも生き返らせて下さったように、イエスキリストとその御言葉を信じる者たちには、永遠の死はなく、永遠の命を与えて下さると聖書にイエスキリストは約束されています。

イエスキリストは自分を信じる者には死が永遠の死ではなく、永遠に生きるための過程にすぎないと約束してくださいました。イエス様は、いつも信じて死んだ者を、死んだと言わず、眠っているとおっしゃいました。

絶望ではなく望みを、裁きではなく救いを、恐れではなく、平安を、疑いではなく確信と信仰を、嫌み、苦しみから癒しと回復の恵みを主イエスキリストが今も信じる我らにお与えて下さっています。

ヨハネの福音書11章に、ベタニアという町で親がいなく住みながら、イエスキリストを愛し、また愛されていた3兄弟(兄ラザロ、マルタとマリア)の中、病気で兄ラザロが死んで四日も経て臭くなっていたお墓の前で、「ラザロも眠っている」とおっしゃったイエスキリストは、祈りを捧げてから、大声で「**ラザロよ。出て来なさい。(ヨハネ11章43節)**」叫ばれ宣布された時、死んでいた彼が、ラザロの手と足を長い布で巻かれたまま生き返られ出て来た出来事もありました。

ヨハネの福音書11章25-27節で、「25イエスは彼女に言われた。「**私は、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。**」26また生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことがありません。あなたは、このことを信じますか。27彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に來られる神の子キリストであると信じております。」

始まった2月、今年もどんな時にも落胆せずに、絶望の中に座り込まず、ただイエスキリストとそのお言葉のみを信じ続けてましよう。みなさんの問題のあるところで、ともにおられるイエスキリストを問題のあるところを招き、具体的に主の御手を置いて取ってくださるよう差し出していきましょう。

自身に、病んでいる人々のために、祈るために、「タリタ・クム！」と信じて宣布し続けましよう。

願わくは、そのように信じ従ってされるみなさんを通して、ますますみなさんの家庭が、みなさんの子供たちが、みなさんの牧場家族が、周りの人々がもう一度起き上がり、立ち上がる回復と変化の恵みが豊かにありますように主イエスキリストの御名によって祝福を祈らせて頂きます！アーメン！！

